

平成22年度 学校経営方針

北九州市立星ヶ丘小学校
校長 荒石 正

1 学校教育目標（21年度～23年度）

自主・自律・交流

- 自主とは 自ら課題を見つけ、考え、判断し、実践する子
- 自律とは 目標や理想に向かって、粘り強く取り組もうとする子
- 交流とは 他者との積極的なコミュニケーションを通して、より良い方向を見つけようとする子

2 本校児童の実態から

(1) 学力 ◎全国平均を4ポイント上回る ○全国と同程度 △全国平均を4ポイント上回る

CRTの結果								
	国 語				算 数			
	18年度	19年度	20年度	21年度	18年度	19年度	20年度	21年度
2年生	○	◎	○	○	○	○	○	○
4年生	△	○	○	○	○	◎	◎	◎
5年生			◎	○			◎	○

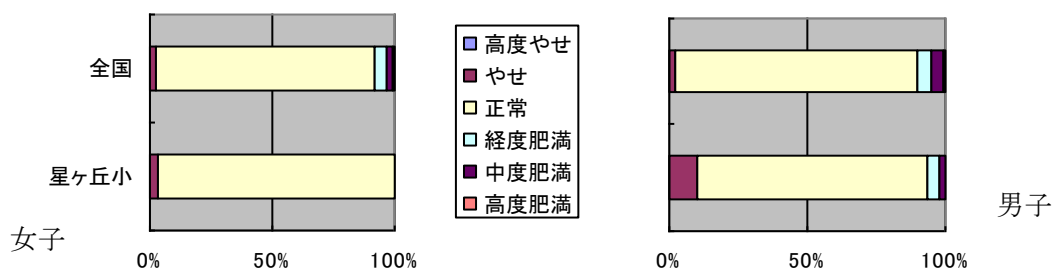
6年生学力検査結果				
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
19年度	○	◎	◎	◎
20年度	×	×	○	△
21年度	◎	○	○	◎

以上の結果より、テストでの本校児童の学力は、学年によってかなり違いが出ている。算数においては少人数指導の成果が現われている。

① 授業から見える児童の学力

- ・学習態度や規律・・・普通
- ・学習意欲・・・・・・・・おおむねある
- ・学習状況・・・・提示された課題は真面目に取り組む。しかし、課題発見力、追求力、解決力が弱い。一昨年度から児童の活動や交流場面を増やすように努力している。

(2) 体力



	今年の5年生		昨年の5年生	
	男子	女子	男子	女子
上体起こし (cm)	2.4	2.6	3.4	2.0
長座体前屈 (cm)	6.4	4.0	1.6	0.5
反復横とび	6.3	4.0	1.3	1.1
シャトルラン20m (回)	1.5	9.5	4.9	3.4
50m走 (秒)	0.25	0.27	0.15	0.23
立ち幅とび (cm)	2.1	8.0	1.9	10.0
ソフトボール投げ (m)	3.09	1.75	0.5	1.2

左の数字は全国平均と比べた数字です。
太字のみプラス、他の数字はすべてマイナスです。昨年度に続き、2年間続けて相当低い数値が出ております。

この結果より本校児童の体力は低いと言わざるを得ない。体力低下が本当で、原因探しも必要だが、体力向上策を具体的行うことが緊急の課題である。

(3) 生活

学校や社会のルールを守る子どもが多い。友達とのトラブル、教師との関係で悩んだりした時に、自らの力で解決しようとする力が低いので、育てつつある。子ども主体の活動を多くさせようと取り組んできた。

(4) 意識

①6年学習状況調査・・・

	19	20	21		19	20	21
毎日朝食	+4.2	-0.5	0	普外勉強	-22.2	-3.6	-14.3
学校確かめ	-0.4	+1.3	+5.5	普読書	-7.0	-5.5	-5.2
同時刻就寝	+8.8	+2.2	+9.4	読書好き	-3.5	-3.6	+8.8
同時刻起床	+4.5	+0.4	+6.4	家話	+5.9	+11.1	+9.1
挑戦	+1.9	+2.5	-6.6	気持ち	+3.2	+3.6	+10.6
自分良い	+9.2	+5.4	+4.8	友と話す			+6.6
睡眠時間	+11.7	+6.5	+8.2	人の役立	+4.6	+1.4	+9.0
困り助け	+3.8	+7.8		予習	-3.1	+10.9	

学校に持っていくものを**確かめ**、難しいことでも**挑戦**する自分は良いところがあると思う、
 普段（月～金）学校外での**勉強**、**読書時間**の長さ、**困っている人を助けたい**、**家で学校の事を話す**、
 人の**気持ちが分かる人間**になりたい、**授業で友達と話し合う**、**人困っていると進んで助ける**、
 土日の**勉強時間**、

③保護者アンケート（別紙）

本校教育に対して、保護者はかなり好感を持っている。しかし、授業の返還と、生み出されたゆとり時間がどのように子どもたちのために使われているのか分かりづらいている。家庭訪問については、復活の声もあるが、日常的なコミュニケーションを求める声が多い。

4. 本年度の重点目標

子ども達が支え合う、あたたかくやわらかい雰囲気のある学級を育てよう

——— **良い点をしっかり見つけ、ほめて、ほめて伸ばす** ———

- (1) 授業改善・・・教師と子どもの一問一答形式から脱却し、児童の発言が繋がる授業
- (2) 積極生徒指導・・・児童自らが主体的に活動する場面をできるだけ多く設定する。
- (3) 人権教育・・・教師自らが、児童一人一人の良さを認め、いじめのない学校にする。

- (4) 保護者の役割再確認・・・保護者の協力を得るために、保護者の頑張りや努力を認め励ますことにより、育児や養育に自信と喜びを持つ保護者を増やしていく。

5. 学校経営の努力課題

(1) 組織力の発揮

学校教育目標達成に向け、教職員一人一人が持つ高い能力を発揮して職務遂行すると共に、学年の組織力で課題解決を行う。

- ① 星ヶ丘小学校の職員全員が協働・参画意識を持つ。
- ② 学級・学年・校務分掌以外の仕事に積極的に協働する。
- ③ 全員が自分のキャリア（経験や年数）に応じた役割を果たす意識を持つ。
- ④ 学年力の発揮
 - ・ 各学年力とは、7年生や事務室、給食室を含む各学年の組織的な力と捉える。
 - ・ 同学年会は、常に学年課題を共有し、課題解決に向けお互いに支え合う組織である。
- ⑤ 運営委員会
 - ・ 月行事の確認だけでなく、各学年の情報交換、学校課題解決推進の場とする。
- ⑥ 各種部会
 - ・ 研究推進委員会、生徒指導部会、校内支援委員会等の組織での議論を活発化・機能化する

(2) 未来をひらく学校づくり支援事業を活用した特色ある学校づくり（別紙参照）

- ①心育て・・・学校いつでもマナーアップ
- ②体力作り・・・学校どこでも体育館
- ③国語力・・・学校どこでも図書館

(3) 経営の重点が明確化できるシンボリックな取り組みの推進（継続）

- ・ 2年生以上のマイ国語辞典の所有と積極的な活用（国語）
- ・ 書く活動の積極的な推進（国語）
- ・ 音読活動や暗唱活動の推進（国語）
- ・ 自学ノート（自宅学習）と早寝・早起きの推進を核に基本的な生活習慣の確立へ向けた取り組みの啓発

(4) 特別活動の積極的な推進

- ①学級会活動・・・集会など自治的活動の推進（朝休みの体育館活動などただし学年了解）
- ②委員会活動・・・児童が意欲的に取り組む創意あふれる活動の推進（自主校内大会等）
- ③クラブ活動・・・正課外の時間を活用した自主的な練習や取組を推進できる活動を目指す。
- ③自主活動・・・児童による創意工夫した活動

(5) ゆとり・・・教師が子どもと向き合う時間の確保（昨年度同様の取り組み）。

①会議の削減と集中化

- ・ 意志の疎通や共通理解のための最低限の会議は開催する。
- ・ 紙上提案の活用や会議での簡潔発言
- ・ トップダウン(校長の決定、主任や係の決定)とボトムアップ(職員の考えの集約)
- ・ 会議提案の集中審議や、休業期間中に会議を集中したりする。

- ・決定事項や伝達事項を確実に実践する。(同学年等の確実な伝達と声かけ)

②事務の効率化

- ・個人貸与の校務用パソコンの積極的活用を図る。
- ・ICTの活用(名簿管理、あゆみの活用)と情報管理、マイPCの禁止。
- ・事務改善により効率化・省力化を推進(本当に必要な事なのか再点検)
- ・清潔・整理・整頓したり計画的に見直しを持ったりすることで効率化を図る。

③学校行事における計画的な準備

- ・運動会や学習発表会などの種目を5月に決定し、1学期に少しずつ授業で取り組む
- ・教師が学校行事で児童の何を育むのか、狙いを明確にする。その上で、児童が主体的に取り組めるよう、低学年から実行委員会形式等を採用するなど、教師の指示⇒児童の行動という図式から抜け、児童自らの意思による取り組みへと深化させる事で短時間化を図る。

(6) 評価・・・学校評価項目の重点化を図り主体的評価を行う。学校関係者評価委員会を年3回実施し、3学期は評価委員と職員が面談を行い交流する。結果は広く公表する。

- ①家庭での規則正しい生活の推進を図るよう啓発する
- ②「家庭学習のすすめⅡ」を啓発し、自主学習の定着を図る。
- ③子どもの自主判断や自主的行動の推進の重要性を啓発し、家庭に於いても実践化を推進する。
- ④安全・教育ヘルパー・あいさつ運動・読み聞かせ・米作り等の地域の教育支援者の積極的活用及び、支援者と児童の給食や感謝の会など、日常的な交流や謝意の表意に努める。

6. 本年度の重点活動(昨年度からの発展)

(1) 学級作り・・・学級の全ての児童が、安心して生活でき、一人一人の価値を認め合える学級作り。学級内の問題を自分達の問題として主体的に解決しようとする学級

教師の果たす役割

完全を求める発想から脱却しよう(特別支援を要する児童が6%いる)

子どもの良いところを見つけ、子ども達への発信者になろう

- ・できないことを責めない。(順番が待てない、掃除ができない、勉強がわからない)
- ・許し合える(一見わがままな行動に思えることでも許す。次第にできるようになる)
- ・高い価値に向かって行動を取れた場合に賞賛する
- ・話し合い活動を重視し、課題を自ら解決する場面を増やしていく
- ・担任が率先して笑顔を見せ、学級内に笑顔や笑いがあふれるようにする

(2) 学習活動の転換

- ① 教師がしゃべり過ぎない授業
- ② 授業において、子どもの発言場面・交流場面・活動場面を増やす
- ③ 自ら課題を見つけ、課題解決のため取り組もうとできる授業を増やす
- ④ 授業場面においても、温かい笑顔や笑いの場面を増やす

(3) 保護者との信頼関係

- ① 定期の家庭訪問は効果が低いので実施しない。子どもの欠席(3日目)やけが、いじめ、保護者の悩み、子どもの状況報告等は、電話よりも家庭を訪問し顔を合わせて懇談する。

- ② あらゆる機会を通じて、保護者のとコミュニケーションを図る努力を行う。
- ③ 年間の学級懇談会計画をしっかり立て、保護者の信頼を得るよう子どもや学級の様子を伝える。
- ④ 子どもが、家族（保護者等）に感謝を伝える日を設定するなど、保護者が子育てに感動する取組を考え実践する。

7 本年度の努力点

(1) 道徳教育

- 児童が楽しいと思える道徳の授業を計画的・発展的・継続的に実施する。「心のノート」の効果的な活用を図り、思いやりのある豊かな心を育てる。

(2) 健康教育

- 保健・安全・給食についての正しい知識を身に付けさせ、健康課題を自ら解決していく実践力をつけることを通して、心と体がたくましい子どもの育成を図る。

(3) 教科等

① 教科

- 学ぶ楽しさを実感できるよう指導方法を工夫改善し、個に応じた指導の充実に努め、基礎・基本の確実な定着を図るとともに自ら学ぶ力を高め、一人一人の確かな学力の向上に努める。

② 総合的な学習の時間

- 総合学習の本来のねらいである児童の自主的な活動が展開できるように計画する。

(4) 生徒指導

- 児童自らが、課題を解決するために問題意識を持ち主体的に解決の方向を探る生徒指導
- 一人一人の子どもの理解に努め、「心の居場所」づくりに努める。
- いじめや不登校は、問題の重大性を認識し、日常のきめ細かな配慮と指導で早期解決を図る。
- 子どもの安全確保・安全管理の徹底を図るとともに、児童の危険回避能力の向上に努める。

(5) 人権教育

- 本校独自の人権教育のカリキュラムを作成する
- 発達障害等への理解を進める教育の推進。

(6) 特別支援教育

- 通常学級での指導に留意が必要な児童に対する支援を行う。
- 子どもの実態把握や保護者との連携に努め、個に応じた指導や交流活動を行う。
- 子どもの実態を把握し、協力体制・関係機関との連携を図る。
- 児童の記録を残し、次年度担任へ確実に引き継ぐ。

(7) 環境教育

- 生活科・総合的な学習の時間を中核に据え、全ての学習・生活場面で、自己と環境の関係を考え、主体的に環境保全を図ろうとする態度を育てる。
- 職員自ら環境問題を自覚し、教育活動がエコの考えに基づいて行われるよう工夫改善を行う。
 - ・ドリルや問題プリントの両面刷り（2回使う）
 - ・製版方法でロール紙半分、連写や2枚コピーで無駄を省く
 - ・紙資源やペットボトルのリサイクル推進

(8) 学校図書館教育

- 児童の読書量や読書時間を増やし、読書への親しみをより増していく。
- 読書意欲の向上や情報を適切に活用する能力の育成を図る。
- 10分間読書の充実を図る。

(10) 情報教育・視聴覚教育

- 本校の情報教育リテラシーに基づいて、コンピュータを活用した授業を積極的に行い、情報活用能力・情報モラルの育成を図る。

(11) 研修の充実

- 専門性を高め、教育活動の充実を図るために、積極的な研修の推進に努める。
- 主題研究を推進し、わかる授業のあり方の追究に努める。
- 初任者研修を学校全体で推進する。
- 若年者(経5年以下)研修を組織し、教師としての力量を高める。

(12) 保護者や地域との連携

- 保護者にたいして、基本的な家庭での生活習慣の確立及び心の居場所としての家庭や保護者のあり方について、積極的にお願いや啓発をおこなっていく。
- 地域とともに子どもを育て、地域に支えられる学校として、各種の地域行事に積極的に参加し、地域の方々との交流を図る。

(13) あいさつ運動の定着と発展

- あいさつ運動発足から4年目を迎える。正門と南門に立たれる年長者は暑い日寒い日毎朝子どもたちに声をかけて下さる。当たり前のように考えるが、子どもたちとの交流が深まり子どもたちにとって好影響が出ている。そこで、あいさつ運動を更に推進するために、創意工夫が必要である。
- 職員が率先してあいさつをおこなう